地球環境のために

横浜ゴムは、環境課題において「カーボンニュートラル」、「サーキュラーエコノミー」、「自然との共生」を3本柱とし、それぞれに中長期目標と達成に向けたロードマップを設定しています。脱炭素社会に向けた取り組みを加速させるとともに、サステナブル原料の研究開発や使用比率の拡大、生物多様性保全活動などを通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

環境基本方針	経営方針に示された「社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする」を規範として、トップレベルの環境貢献企業を目指します。

● 環境経営を持続的に改善します。　● 地球温暖化防止に取り組みます。　● 持続可能な循環型社会実現に貢献します。

環境課題の3本柱	中期経営計画YX2023のESG経営において「未来への思いやり」をスローガンに掲げ、環境課題においては、以下の3つを柱とした活動に取り組みます。
	中長期目標と達成に向けたロードマップ
カーボンニュートラル	● 2030年：自社活動におけるCO_2排出量38%削減（2013年比） ● 2050年：自社活動におけるCO_2排出量ネットゼロ
サーキュラーエコノミー	● 2030年：再生可能原料･リサイクル原料使用率30%以上 ● 2050年：サステナブル原料100%
自然との共生	● YOKOHAMA千年の杜活動：2030年における植樹･苗木提供累計130万本 ● 持続可能な天然ゴム調達の推進 ● 地域の生態系に適合した生物多様性保全活動

カーボンニュートラルの取り組み

2030年に自社活動におけるCO_2排出量を2013年比38%削減、2050年にはCO_2排出量ネットゼロを目指します。生産拠点においては、新城南工場をモデル工場として2030年までにカーボンニュートラル化し、そのノウハウを国内外の工場に展開、2050年までに全工場のカーボンニュートラル化に取り組みます。製造拠点以外についても、全社での活動として、設備･機器･輸送のプロセスの改善、見直しを進める「年1%自社改善活動」を継続して行い、カーボンニュートラルの実現を目指します。

カーボンニュートラルのモデル工場となる新城南工場

サーキュラーエコノミーの取り組み

原材料のサステナブル素材化に取り組み、独自の探索･開発の他、パートナーとの協働･技術開発を通じて2030年に再生可能原料、リサイクル原料の使用率を30%以上、2050年にサステナブル原料100%とすることを目指します。具体的には、エタノールからの高効率ブタジエン合成や生物資源からのブタジエン、イソプレン製造の技術開発、モータースポーツでのサステナブル素材を使用したタイヤの技術開発などを通じて、製品性能とサーキュラーエコノミーの両立を目指します。

サーキュラーエコノミーのロードマップ

自然との共生の取り組み

● YOKOHAMA千年の杜活動

「YOKOHAMA千年の杜」は、横浜ゴムの創立100周年に当たる2017年までに国内外の生産・販売関連拠点に、潜在自然植生を活かして50万本の苗木を植える活動として2007年に開始しました。2007年11月11日に実施した平塚製造所での植樹を皮切りに、国内14拠点、海外では8カ国21拠点で植樹を実施し、2017年9月に目標の50万本を達成しました。2021年度末までに行った植樹は62.8万本、苗木提供は46.2万本となり、あわせて109.0万本となりました。今後も国内外の各拠点で継続的に推進し、2030年までに植樹と苗木提供をあわせて130万本を目標に活動を継続していきます。

これまで培ってきた知見を活かし、これからも温暖化抑制や地域の生物多様性保全に寄与するため、工場などでの植樹活動と共に苗の提供と植樹ノウハウの提供により、この取り組みを継続していきます。

● 持続可能な天然ゴムの調達

天然ゴムは横浜ゴムグループの原料使用量の約20%を占めており、お客さまに当社製品を絶やすことなく提供するためには欠かせない原料です。

横浜ゴムはグローバルタイヤメーカーとしての責任を果たすために、持続可能な発展のための世界経済人会議(WBCSD)※1のタイヤ産業プロジェクト(TIP)※2が主導して立ち上げた、持続可能な天然ゴムのためのプラットフォーム(GPSNR)※3に創設メンバーとして参画するとともに、同年10月に独自に「持続可能な天然ゴムの調達方針」を策定しました。

当社グループでは、「持続可能な天然ゴムの調達方針」に基づき、トレーサビリティ構築、人権・労働・環境保護などに取り組んでいます。

また、当社子会社のY.T.ラバー(YTRC)が周辺農家に対して普及支援を行ってきたアグロフォレストリーの取り組みや、「YOKOHAMA千年の杜」活動で培ったノウハウの提供など、当社グループ独自の取り組みも行っています。

※1 WBCSD:World Business Council for Sustainable Developmentの略称
※2 TIP:Tire Industry Projectの略称
※3 GPSNR:Global Platform for Sustainable Natural Rubberの略称

● 生物多様性保全活動

横浜ゴムグループでは、天然ゴムなどの生物資源を利用し、事業活動が生物多様性に影響を与えているという認識に立ち、長期的な視点で生物多様性の保全に取り組んでいます。

工場においては、ビオトープの創出、地域の方と連携して取り組む「千年の杜」活動や生き物調査により事業影響を評価するモニタリング活動などを行っており、平塚製造所、尾道工場、茨城工場、三重工場、新城工場の計5拠点が一般社団法人「いきもの共生事業推進協議会(ABINC)」の「いきもの共生事業所®認証(ABINC認証)」を取得しています。

TOPIC

サプライヤーとの交流イベントを実施

横浜ゴムでは持続可能な天然ゴムの調達活動の一環として、天然ゴムサプライヤーを対象としたセミナーや、「サプライヤーズデー」など、各国で多くの交流イベントを実施しています。

2022年5月の「サプライヤーズデー」はオンライン開催となりましたが、各国から天然ゴムの生産者や商社など計180名にご参加いただきました。当社の持続可能な天然ゴムの調達活動への具体的な取り組みにご協力をお願いし、サプライヤーとの共通理解を深めたほか、特に貢献いただいたサプライヤーへの表彰を行い、パートナーシップの強化を図りました。

6月には農家支援の一環として開催してタイの天然ゴム農家に対し、天然ゴムの品質および生産性向上に向けたセミナーイベントを開催しました。参加いただいた天然ゴム農家には天然ゴム物性や生産性についての追跡調査にも協力していただいています。

サプライヤー表彰受賞者に授与したトロフィー

セミナーイベントに参加した天然ゴム農家の方々